

秋－6 川柳を楽しもう

1. 活動の目的

- ①日本の文化の一つである川柳を楽しむ。
- ②川柳を作る活動を通じて、日本語のリズムや「音」を体得する。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆川柳サンプル

- ・短冊
- ・大きい紙
- ・サインペン

3. 活動の手順 発：発展的活動 留：留意点 参：参考

活動1

- ・テキストの川柳を、各自声を出して読む。縦書きにも慣れる。
- ・その中で上手に5・7・5のリズムで読めている学習者を指名して、読んでもらう。
- ・その後全員で声を出して読み、5・7・5のリズムを感じてもらう。
- ・それぞれの川柳について、どういう状況か、作者の気持ちを想像して話し合う。
- ・そして、学習者自身がどう感じたかなど、質問しながら話す。

参 5・7・5の数え方は「拍」と「音」と両方あるが、ここでは「音」で統一した。

留 専門的な「上5・中7・下5」という言い方を使わず、必要なときは、「初めの5音」等、学習者が理解しやすい言葉を使う。

参 日本の詩歌

- ・短歌：5・7・5・7・7 31文字（みそひともじ）
- ・俳句と川柳：5・7・5
- ・俳句と川柳の違い：

俳句は自然や風景情景を詠む。季語が必要。

川柳は人間模様や社会風刺を詠む。ユーモアやウィットを織り込む。

活動2

- ・3句の川柳のかっこ内を、与えられた言葉の中から選び出し、埋めて完成させる。
- ・1) 音を数えて定型に、2) 川柳の文脈を理解して、言葉を選べるようにする。
- ・会話しながらヒントを与える。

例：「その（ ）内なら、何音の言葉が入る？」

「昼ごはん、この「僕」はコンビニで買うのね。

その後を想像して思いつく言葉がありますか？」

活動3

- ・ 5・7・5の定型を守るために、音の基本の数え方を知る。
- ・ 表にした例を学習者と一緒に声に出して読み、音を確認する。
- ・ 実際に指を折って数えながら、一緒にやってみるとわかりやすい。
- ・ 音の数え方を理解した上で、6つの言葉の音を知る。

[正解] 日本語・4音 公園・4音 ワンピース・5音
いっしょ・3音 ミックスジュース・7音 学校・4音

活動4

大きい紙
サインペン

- ・ グループで学習者全員が言葉を連想しやすいようなテーマを決められるよう手伝う。
- ・ 学習者各自がテーマから連想される言葉を、5音、7音を確認しながら、大きい紙に書き出す。
- ・ ある程度出そろったら、各自で5・7・5の定型にして、川柳を作る。
- ・ 皆で連想した言葉と、自分で思いついた言葉を、組み合わせても良い。
- ・ テキストの四角のマスの中に、書きこむ。
- ・ 漢字が書ける学習者には、マスが余っても良いので漢字を使ってみることを勧める。
- ・ 資料にある色々な川柳を見て川柳の型に慣れる。

留 字余り等の破型（定型でないもの）については、ここでは説明しないので、定型になるように、ヒントをあげるなどして手伝う。

活動5

短冊
サインペン
川柳サンプル

- ・ 出来上がった川柳を短冊に書く。
- ・ グループ内で、短冊をまわしながらお互いの川柳を鑑賞する。
- ・ 学習者自身の想いや、他の学習者の作品の好きなどころ等を話す。
- ・ 学習者全員で、今日の「一番人気の川柳」を選ぶ。

留 短冊に書く時に、縦書きに慣れてない学習者は、紙に書いて練習しても良い。

発 ①学習者全員の短冊をSIFAの掲示板に1ヶ月ほど貼り出して、SIFAに来る人達に人気投票をしてもらう。

②結果が出たら上位3人位に、お花マークをつけるなどして、健闘を讃える。

③本人の了解を得て、「SIFA Times」やSIFAのFacebookに掲載する。

④一般の川柳投稿サイトなどに投稿するのも楽しい。